

みんなの力で未来を拓く 人と地域が燦くまちよこて

四季の美しさと
人の温かさを
感じられるまち

横手市は、秋田県の内陸南部、東の奥羽山脈、西の出羽丘陵に囲まれた横手盆地の中央に位置します。肥沃な大地に恵まれた農業の盛んな地域で、農産物は米の生産



雪国秋田を代表する伝統行事「かまくら」

が中心ですが、そのほかにも、りんご、ぶどう、もも、ホウレンソウ、すいか、アスパラガス、花き、シイタケの生産量は県内第1位を誇ります。近年はB・1グランプリなどのイベントによりご当地グルメの「横手やきそば」が注目されました。

また、中世武家社会形成の契機として位置付けられている後三年合戦(1083年〜1087年)の舞台として知られ、史跡や逸話が市内各所に伝えられています。秋田佐竹藩の支城が置かれた横手地域は政治経済、交通の要衝として発展しました。情緒あふれる城下町には画家の竹下夢二が定宿を置き、作家の石坂洋次郎は横手を舞台とした作品「青い山脈」を発表しています。

さらに、県内屈指の商業地域と

して繁栄した歴史を今に伝える「増田のまちなみ」(増田地域)には、明治・大正期に建築された伝統的な町家や豪華絢爛な内蔵が残り、国の伝統的建造物群保存地区に指定されています。

気候は長い冬と短い夏が特徴で、全国有数の豪雪地帯です。雪国秋田を代表する横手の「かまくら」は、450年以上の歴史を持つ詩情豊かな民俗行事で、期間中は100を超えるかまくらと無数のミニかまくらがまちを彩ります。

各種産業のバランスの 取れた新しい田園都市の モデルづくり

本市は県内でも有数の自動車関連産業の集積地となっています。

その一方、企業誘致や地元企業の育成と同時に進めているのが、産

業としての農業の確立です。本市には新たな品種の導入や栽培方法などを検証する「実験農場」がありますが、主にここを中心として2年間の農業研修を行う「よこて農業創生大学研修育成事業」を行っています。

企業的な感覚としっかりとした技術を持った農業者の育成が目的となっており、次代の農業の担い手を育てています。研修生の中には脱サラをして農家になるため入学したという首都圏からの移住者もあり、農業を魅力ある産業ととらえている方々へ向けての移住・定住の施策としても効果が期待されています。

また、市外への労働人口の流出を防ぐことにより、農業、製造業、商業、サービス業のバランスの取れた田園都市を目指しています。

安心して 産み育てられるまち

本市は「2012出産・子育てしやすい街ランキング」(週刊東



市民も市外の人も参加できる「よこてシティハーフマラソン」

スポーツで健康増進と 元氣なまちづくり

洋経済)において1位をいただきました。しかし、これに満足することなく、より子育てしやすいまちを目指し、保育所や認定こども園、放課後児童クラブの充実や、横手市児童センターの整備、中学校修了前までの医療費無料化、また公園整備をはじめとした日常生活空間の充実など、多岐にわたって取り組んでいます。

また、出産・子育てに関する情報や、意見交換、相談などが気軽にできる子育て情報サイト「はぐはぐ」は多くの「ママさん」より好評をいただいております。

本市は平成25年に「スポーツ立市よこて」を宣言しました。元氣なまちづくりと地域の活性化、市民一人一人が生涯スポーツと出会い、健康に生活することが目的となっています。

指導員のアドバイザーを受けながら誰でも活用できるスポー

ツジムのある「健康の駅」の設置や、競技としても気軽なスポーツイベントとしても参加できる「よこてシティハーフマラソン」など、多くのスポーツイベントが開催されています。子どもから大人まで、スポーツに携わることの素晴らしさが実感できるまちを目指しています。

子どもたちへの ふるさと教育と 本市出身者への情報発信

本市では子どもたちに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けさせると同時に、本市の歴史・文化・産業の良さを知らせ、「ふるさと横手を愛する心」を醸成させるために「横手を学ぶ郷土学」を創設しました。これは小中学生と全市民を対象とした郷土学習の取り組みです。

近年、地元の魅力あふれる歴史や伝統、ほかにはない固有の文化などが地域を担う子どもたちから遠いものになりつつあります。それらの再発見を促し、学びによる理解と実践を通じた伝承につながることで、ふるさとに誇りと愛着を持った子どもを育てています。

将来的には自ら魅力を発信して地域貢献できる人材の育成を目指しています。

その一方、本市を離れ、首都圏に住む方々へ向けては、本市を応援してくれるサポーターを獲得する新たな手法として、「よこてE通信」という交流情報誌を発行しています。

本市出身者との情報交換、交流

プロフィール

- ◆ 面積 692・80 km²
- ◆ 人口 9万2951人
- ◆ 世帯数 3万4401世帯

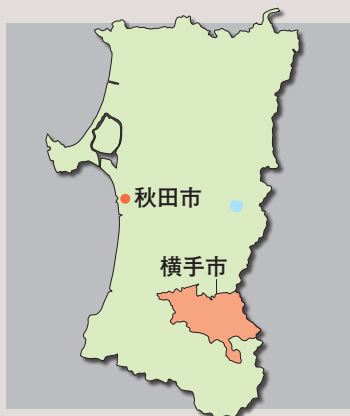
〔将来都市像〕 みんなの力で 未来を拓く 人と地域が燦くまち よこて

〔まちの特徴〕 東は奥羽山脈、西は出羽丘陵に囲まれた四季折々の景色が美しい歴史と伝統が息づくまち

〔市町村合併〕 平成17年10月1日、横手市、増田町、平鹿町、大森町、雄物川町、十文字町、山内村、大雄村が合併



横手市長
高橋 大



〔特産品〕 横手やきそば、十文字の中華そば、大雄ホップ、山内いものこりんご、ぶどう、すいか、さくらんぼ

〔観光〕 増田のまちなみ、横手公園(横手城)、増田まんが美術館、大森リゾート村、さくらんぼ狩り、ぶどう狩り

〔イベント〕 横手の雪まつり(かまくら・ぼんでん)、よこてシティハーフマラソン、よこての全国線香花火大会、横手の送り盆まつり、全日本元祖たらいこぎ選手権大会

を図ると同時に、首都圏への情報発信を出身者の口コミで広げる試みです。効果は数字ですぐ表れるものではありませんが、首都圏に住む出身者の皆さんが、胸を張って「私のふるさととはこんなところですよ」とどんどんお話ししていただくことが本市の名前を多くの人に知っていただくことにつながるものと考えております。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

平塚の魅力を生かして 「選ばれるまち」に

恵まれた自然と
都市のにぎわい

平塚市は、神奈川県の中央南部、海・川・丘陵などの豊かな自然と温和な気候に恵まれたまちです。東京駅からＪＲ東海道線に１時間ほど乗車すると、まちの玄関、平塚駅に到着します。江戸時代には東海道五十三次の宿場町として栄え、第二次世界大戦では大きな被害を受けたものの、戦後、目覚ましい発展を遂げ、現在に至ります。

最近話題になったのは、平塚で生まれ育った新しい品種の米、「はるみ」です。日本穀物検定協会による平成28年産米の食味ランキングで、神奈川県として初めて食味が最も良いとされる「特Ａ」を獲得しました。

はるみという名が、「平塚の晴れ渡る明るい海」に由来するように、本市の魅力を語るとき、「海」は欠かせないキーワードです。１年中ビーチスポーツが楽しめるビーチパーク、新鮮な魚が集まる魚市場など、海岸エリアはレジャー、スポーツ、グルメなどの魅力にあふれています。

また、本市はＪリーグ「湘南ベルマーレ」のホームタウンとしても知られています。充実したスポーツ施設では、サッカー、野球、バスケットボールなどのプロチームの試合が多数開催されます。これらの施設を活用し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、神奈川県とともに北ヨーロッパのリトアニア共和国のホストタウンとなり、代表選手団の事前キャンプ地とする協定を締

結しました。同国とは、今後、スポーツのみならず、文化、経済、教育面での交流を進めていきます。

全国に誇る2つのまつり

「湘南ひらつか七夕まつり」と「湘南ひらつか囲碁まつり1000面打ち大会」は、本市を代表する催しとして親しまれています。

「湘南ひらつか七夕まつり」は、日本三大七夕祭りの１つに数えられ、その歴史は昭和26年にさかのぼります。「平塚の七夕」といえば、豪華な竹飾り。中心会場となる駅前商店街では、10mを超える大型飾りから市民の手による飾りまで、約500本が通りを埋め尽くします。多くのボランティアに支えられ、時代を反映する新たなイベントや取り組みを積極的に取り入れ、毎年異なる魅力を生み出



手をつなぎたくなる街

人と人の輪がもっと広がり、ずっと続くことをイメージしたロゴマーク



平成28年の来場者数は3日間で約155万人を記録した「湘南ひらつか七夕まつり」

しています。「湘南ひらつか囲碁まつり1000面打ち大会」は、駅前商店街に碁盤をずらりと並べ、全国から集まる囲碁愛好家が憧れのプロ棋士に対局を挑む催しです。本市と囲碁との縁は、昭和の名棋士、木谷實九段が才能ある子どもたちをプロ棋士へと育て上げた「木谷道場」が本市にあったことから始まります。木谷九段やその弟子の功績をたたえ、囲碁を本市の特色ある文化として位置付け、その普及と振興に努めています。

子どもを産み育てやすい環境づくり

人口減少が進む中、持続可能なまちづくりを進めるには、社会を支える働く世代や未来を担う子どもたちは、なくてはならない存在です。そこで、子育て世代から「選ばれるまち」を目指し、子育て支援や教育環境の充実に力を入れています。

数ある施策の中でも、まず、「保育環境の整備」に取り組みました。市内保育所の定員増が功を奏し、平成27年・28年の2年連続で4月の待機児童ゼロを達成しました。本年度からは、保育士の確保を進めるため、市外から転入して市内民間保育所に就職する保育士を対象とした、貸付金制度を新設しました。



本年4月に市内で4カ所目の子育て支援センターがオープン

医療面では、平成28年度から小児医療費の通院助成対象を中学

3年生までに拡大したほか、平塚市民病院では新棟の開設とともに、産科と小児科が連携して高度医療にも対応可能な「小児・周産期センター」を、富士山が見える5階に設置しました。

このほか、子どもの成長過程を踏まえた取り組みの充実に向け、施策間の「横の連携」と、周産期から学齢期、青年期までの「縦の連携」を強化しています。本年4月からは、切れ目のない支援をするため、「子育て世代包括支援センター」を設置し、保健師や助産師などが不安や悩みの相談に応じたり、関係機関と連携して情報提供したりする「平塚版ネウボラ」が動き始めました。

「手をつなぎたくなる街 湘南ひらつか」

——これは、本市が持つ、庶民的なイメージ、温かなつながりに着目し、平成28年夏に作り上げたシティプロモーションのスローガンです。

平成28年4月から始動した総合計画で、4つの重点施策として「強みを活かしたしごとづくり」「子どもを産み育てやすい環境づ

くり」「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」「安心・安全に暮らせるまちづくり」を定めました。こうした市民の暮らしや地域の活性化に密着した施策を充実・強化する一方、本市の取り組み、魅力や地域資源を磨き上げ、それらの認知度を高めるために、市内外に積極的に発信する必要性も感じています。今後、広域的なシティプロモーションを継続的に実施し、

プロフィール

- ◆ 面積 67・88 km²
- ◆ 人口 25万8661人
- ◆ 世帯数 10万7945世帯

〔将来都市像〕選ばれるまち・住み続けるまち

〔まちの特徴〕商業・工業・農業・漁業・観光を中心とする産業がバランス良く発達した居住均衡都市

〔特産品〕バラ、トマト、小松菜、きゅうり、いちご、相州だるま、たたみい



平塚市長
落合克宏



〔観光〕総合公園、湘南平、湘南ひらつかビーチパーク、平塚新港、平塚市美術館、金目観音堂
〔イベント〕平塚市緑化まつり、湘南ひらつか七夕まつり、湘南ひらつかビーチカーニバル、湘南ひらつか花火大会、湘南ひらつか囲碁まつり1000面打ち大会、ひらつか民俗芸能まつり

本市の魅力アップにつなげたいと考えています。本市は、市の魅力である「温かさ」を確実に施策へ反映させることで、「選ばれるまち・住み続けるまち」の実現に向け、「平塚らしさ」を生かしたまちづくりに取り組んでいます。皆さまも本市にお越しになり、人々の温かさに触れてみてください。きつと、気に入っていただけるはずです。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

オール天理による 「これからも住み続けたいまち」づくり

自然・歴史・文化が
息づくまち

天理市は、昭和29年に3町3村
が合併し、奈良県下で4番目の都
市として誕生しました。

日本最古の道として知られる山
の辺の道や最古の神宮である石上



リオ五輪で活躍された柔道の太田将平選手（左側）と正木健人選手

神宮、大小併せて1600基もの
古墳群など、大和青垣と呼ばれる
山々の豊かな自然と日本の国の源
流ともいえる深い歴史が一体と
なっており、地域に息づいています。

また、天理教の教会本部の所在
地であることから、日本唯一の宗
教文化都市として発展を遂げてき
ました。

市域は、奈良盆地の一部をなす
平野部と大和高原の山間部から成
り、大阪から電車や車で1時間程
度という都市的な性格のみなら
ず、古き良き里山の暮らしが色濃
く残っています。また、JRおよび
私鉄路線や大阪・名古屋間を結ぶ
名阪国道・西名阪自動車道、京都・
和歌山間を結ぶ京奈和自動車道な
どが通じる交通の要衝にもなっ
ています。

市内では、雅楽や吹奏楽・オー
ケストラといった文化活動が盛ん
で、さまざまな大会において受賞
実績を誇ります。また、柔道・ラゲ
ビー・水泳などのスポーツも非常
に活発に行われており、トップレ
ベルのアスリートを数多く輩出し
ております。まちを歩いていてオ
リンピックメダリストにばったり
出会うこともしばしばあります。

自然、歴史、文化、スポーツな
どさまざまな「カオ」を併せ持つ
のも本市の面白いところだと考え
ています。

「住み続けたいまち」に 向けて

県下で唯一の定住自立圏中心市
として「大和まほろば定住自立圏」
を形成するなど、奈良県内におけ
る固有の立ち位置があり、市内に

においても地域ごとに特色がありま
す。それらの強みを適切に分析
し、それぞれに合った「処方箋」
として複眼的視点で政策を展開す
ることが必要です。

生活スタイルが多様化する中、
本市では子育て環境、医療、高齢
者福祉の充実など、このまちで暮
らすことの魅力を創出していくこ
とが大切だと考えています。

例えば、子育て支援の拠点施設
として、子育て世代すこやか支援
センター「はぐくむ」を市役所に
併設し、子育て世代が安心して子
どもを産み育てることができるよう、
妊娠前から出産、子育てに至
るまで切れ目のない子育て支援
「天理市版ネウボラ」の拠点として
子育てコンシェルジュや産後支援
を行う産後ドゥーラによる支援を
実施する体制を構築しています。

また、平成28年4月に医療と介
護予防、健康づくりの拠点として
新たにオープンした市立メディカ
ルセンターの「地域包括ケア広場」
では、連日、介護や認知症予防の

講座を開催しています。市内各地域で実施されているサロンをつなぎ、ネットワークを担う人材として介護予防リーダーを育成し、介護が必要な状態になっても自宅で生活ができる地域の在り方やサビスを提供する地域包括ケアシステムの構築を目指しています。

まちづくりの波をつなげて

これらの施策をより多くの方々に発信し、利用していただくために、市の商工業の中心であり、交流人口の出入口である駅前広場を文化発信やにぎわいの拠点と位置付け、本年4月にリニューアルオープンを迎えました。

素晴らしい品質や伝統技術が活かされているにもかかわらず、あまり認知されていない市内・県内の良いモノをしっかりとPRするアンテナショップや、多様な文化の発信の場である野外ステージ、地元農産品を使った食の提供と周遊観光案内が融合した「食と旅の拠点施設」を整備するほか、大型遊具や健康遊具を設置し、子育て世代が休日に出掛けて楽しめる空間づくりを行います。

これらの駅前広場のにぎわいづ

くりを、周辺の商店街や周遊観光を通した他地区への大きなにぎわいにつなげるとともに、多世代が集い、自由に時を過ごし、子どもたちが遊び、誰の目にも触れやすいこの場を、子育て・健康づくり・介護予防など市施策の「シヨールーム」として活用する行政の新たな挑戦でもあります。

また、平成26年度から、市内各地において「街づくり協議会」を順次立ち上げ、行政だけでなく地域の自治会や農・商工関係者、専門家を交えて、地域ごとの特色を生かしたまちづくりや地域の活性化について検討を進めています。

歴史資産が数多く残る南部地区



本年4月にリニューアルした天理駅前広場

プロフィール

では、地域の情報発信とサイクリングやノルディックウォーキングによる周遊観光拠点として、食の魅力と産品販売を加えたトレイルセンターの機能強化を図る取り組みを進めており、豊かな自然と里山の暮らしが残る高原地区では、地域の強みを生かしたライフスタイル提案による移住・定住促進などに着手しています。また、観光客でにぎわう奈良市方面からの玄関口である北部地区においても、

地域で進めていただいていた活性化プロジェクトを主軸として協議会を立ち上げたところです。

市民のさまざまなニーズや地域住民の活動の意欲をしっかりと巻き込み、それぞれを個別の取り組みで終わらせることなく、天理駅前広場や「はぐろる」、メディアカルセンターといった新たな拠点としっかりとつないでいくことで、より大きな「まちづくりの波」を起こすことができると信じています。



天理市長
並河 健

〔将来都市像〕これからも住み続けたいまち天理市

〔まちの特徴〕日本の源流とも言える深い歴史の中に、豊かな自然と里の暮らしが息づくまち

〔特産品〕水稲、イチゴ、トマト、ナス、

◆面積 86・42 km²

◆人口 6万5997人

◆世帯数 2万9237世帯



ホウレンソウ、刀根早生柿、木工神具、日本酒、襖の引手

〔観光〕山の辺の道、石上神宮、龍王山、内山永久寺跡、黒塚古墳、大和神社、長岳寺、崇神・景行天皇陵

〔イベント〕ふるまつり、ちゃんちゃん祭り、紅しで踊り、はにわ祭、福住氷まつり、虫送り、柳燈会、てくてくてんり、天理市光の祭典

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

安全・安心で 人々を引き付ける 魅力あるまちづくり

はじめに

遠い昔、松の木に星が降り、七日七夜光り輝いたという「星ふるまち」の伝説が残る下松市。

山口県南東の瀬戸内海に面し、天然の良港を備えており、機械、鉄鋼、造船などの臨海工業都市として発展してきました。近年は大型小売店の出店が相次ぎ、商業や物流の拠点地域としても、さらなる躍進を続けています。

また、本市は、面積89・35km²と、山口県下の市では最も面積が小さく、都市基盤や商業施設の充実とともに、山や島の豊かな自然に包まれた非常にコンパクトにまとまったまちです。生活面における利便性の高さなどを背景に「住みよいまち」としても高く評価していただいております。

産業と観光

まだまだ知名度に劣る下松市。山口県内のほかの市町が誇る観光名所にはなかなか太刀打ちできず、観光客数は県内最少で、「くだまつ」と正しく読んでももらえないこともしばしばですが、私たちのまちには誇るべき素晴らしい産業があり、「ものづくりのまち」として、世界に誇る高い技術力と情熱を世界へ発信しています。

中でも本市を代表する産業として有名なのが鉄道車両の製造です。鉄道ファンの中にはご存じの方もいらっしゃると思いますが、本市は新幹線の先頭部分を手作業でつくる工場から、精密ボルトを製造する工場まで鉄道車両の部品メーカーが集中し、鉄道車両産業に特化した産業構造を有しています。



3月5日に実施された「道路を走る高速鉄道車両 見学プロジェクト」

これらを観光分野に生かしたい、子どもたちに地元の産業を知ってほしいと企画したのが「道路を走る高速鉄道車両 見学プロジェクト」です。

本市で製造している英国向け高速鉄道車両は、本市の埠頭から超大型の運搬船で出荷されていますが、工場から埠頭までは一般車道を使って陸上運送されています。通常は交通量の少ない深夜に行われていますが、各方面の協力を得て、恐らく全国で初めて昼間（3月5日（日））に陸送を行いました。当日は、鉄道発祥の地へ出荷される車両が陸送される様子を一目見ようと、県内外から予想を上回る約3万人が沿道に詰め掛け、私も改めて鉄道の人気の高さに驚かされました。

豊かな自然に恵まれたまち

活気ある「まち」と安らげる「さと」が共存する本市は、海と山に囲まれた豊かな自然も自慢の一つです。

日本の原風景が今なお色濃く残り、「にほんの里100選（朝日新聞社・森林文化協会主催）」にも選定された米川地区は、末武川ダム（愛称・米泉湖）と温見ダムとい



きつねに扮した新郎・新婦が、まちを練り歩く「きつねの嫁入り行列」（稲穂祭）

う2つの豊かな水資源を有しており、安定的に豊かでおいしい水を低料金で市民の皆さまに供給できる環境に恵まれています。住みよ々と評価いただいている要因の一つでもあります。

また、島全体が瀬戸内海国立公園に指定されている笠戸島かさどじまの風光明媚な自然は、訪れる人々の心に安らぎを与えてくれます。特に平成28年11月に全面リニューアルオープンした国民宿舎「大城」の温泉に浸かりながら眺める夕日は

絶景です。併せて名物の絶品「笠戸ひらめ」も堪能いただけます。

さらに、本市には歴史に由来する数多くの文化財や伝統行事が受け継がれています。毎年11月には「きつねの嫁入り」行列が旧山陽街道を練り歩く「稲穂祭」が開催され、奇祭として全国から多くのカメラファンや見物客でにぎわいます。

今後も自然や歴史、地元食材などを生かした魅力ある取り組みを、市民の皆さまと知恵を出し合いながら展開してまいります。

おわりに

私が平成28年4月に市長に就任して、およそ1年が過ぎました。単独市制を選択し、4期16年にわたる多くの功績を築き上げるとともに徹底的な行財政改革で本市の財政力を県下トップに引き上げた前市長をはじめ、歴代の市長の優れた政策を継承し、さらなる発展を図ることを自らへの政治命題としております。その中で、本市発展の重要な柱として「安全安心の確保・充実」「人々を引き付ける魅力あるまちづくり」の実現を最重要政策として掲げ、まちづくりの主役で

ある市民の皆さまの声に耳を傾けながら、全力で市政運営に取り組み決意を新たにしております。

本市においては、平成28年、消防・防災の拠点施設である新消防庁舎を運用開始し、さらには防災情報の新たな伝達手段として防災行政無線を整備し、本年4月から正式運用を開始するなど、安全に

プロフィール

- ◆ 面積 89・35 km²
- ◆ 人口 5万6735人
- ◆ 世帯数 2万5449世帯

〔将来都市像〕都市と自然のバランスのとれた 住みよき日本一の星ふるまち
〔まちの特徴〕大型商業施設や製造業を中心とした企業が集積し、日常生活の便利さと、山と海の恵みを楽しめるコンパクトなまち

〔特産品〕笠戸ひらめ、下松牛骨ラーメン、ハム・ソーセージ、銘菓「磯もなか」・「カステラせんべい」、地酒
〔観光〕国民宿舎「大城」、アクティブ



下松市長
国井益雄



リゾート笠戸島ハイツ、はなぐり海水浴場、海上遊歩道、笠戸島家族旅行村、米泉湖、滝ノ口河川公園、下松スポーツ公園のコスモス畑およびシダレザクラ、花岡八幡宮、関伽井坊多宝塔
〔イベント〕切戸川桜！桜！フェスタ、米泉湖サマージャンボリー、笠戸島マリンイカダレース、笠戸島大城温泉花火大会、稲穂祭（きつねの嫁入り）、くだまつ総踊り、星のふるまち童謡フェスタ、くだまつ笠戸島アイランドトレイル

安心して暮らせるまちづくりをさらに進めているところです。
全国的に人口減少が叫ばれる中、本市は人口の微増傾向を維持していますが、人口減少の波はいずれやってくるといふ危機感を持って対策を講じ、「住みたい」「住み続けたい」下松市を創生してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。